

# 第 5 3 期 決 算 公 告

2020年3月13日

東京都中央区八丁堀四丁目 6 番 1 号  
株式会社日立トラベルビューロー  
取締役社長 大谷 一彦

## 貸 借 対 照 表

(2019年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
流 動 資 産	8,087,978	流 動 負 債	5,643,381
現金及び預金	3,408,899	買掛金	5,060,678
売掛金	4,175,292	リース債務	10,767
商品及び貯蔵品	9,341	未払金	90,310
前払費用	461,921	未払費用	50,802
預け金	55	未払法人税等	183,022
その他	45,468	未払消費税等	11,584
貸倒引当金	△ 13,000	賞与引当金	90,000
固 定 資 産	813,366	前受金	53,105
有形固定資産	61,169	預り金	91,075
建物	20,219	その他	2,033
工具、器具及び備品	6,562	固 定 負 債	514,107
リース資産	34,388	リース債務	23,621
無形固定資産	267,774	退職給付引当金	490,486
施設利用権	3,825	負 債 合 計	6,157,488
ソフトウェア	210,699	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	53,250	株 主 資 本	2,743,856
投資その他の資産	484,422	資本金	100,000
関係会社株式	20,000	利益剰余金	2,643,856
子会社貸付金	78,350	利益準備金	25,000
繰延税金資産	210,435	その他利益剰余金	2,618,856
差入保証金	133,923	別途積立金	2,033,000
その他	42,712	繰越利益剰余金	585,856
貸倒引当金	△ 1,000	純 資 産 合 計	2,743,856
資 産 合 計	8,901,345	負 債 純 資 産 合 計	8,901,345

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

計算書類は「会社計算規則」(平成18年2月7日 法務省令第13号)に基づいて作成しております。

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

- (1) たな卸資産 ..... 移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております)

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産(リース資産を除く) ..... 定額法  
(2) 無形固定資産(リース資産を除く) ..... 定額法  
(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

..... 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

..... リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうちリース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によりしております。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

期末債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

###### ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によりしております。

###### ② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間(14~23年)による定額法により、翌事業年度から費用処理しております。なお、当事業年度末において認識すべき年金資産が退職給付債務から未認識数理計算上の差異を控除した額を超過するため、前払年金費用として、投資その他の資産に計上しております。

##### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づき期末要支給額を計上しております。

#### 4. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によりしております。

以上